キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会ニューズレターNo.12

発行責任者 黒田裕子　編集 武内・田村・有本・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内

TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

日本ホスピス在宅ケア研究会　理事長　大頭　信義

みなさん　こんにちは

日本ホスピス在宅ケア研究会　の活動につきまして、ご紹介させていただきます。

木曜日は、私が午前中から往診で患者さん宅を訪問していることもあって、神戸での例会に出席できず、皆さんと親しくお話しする機会が少ないことを残念に感じています。でも、黒田裕子さんは、私たちの研究会の副理事長であり、また、事務局長の田村さんが詳しく活動内容を mail で伝えて下さいますので、会の情報はまず伝わっています。

兵庫県のがん患者連絡会はもちろん、その他の都道府県のがん患者会の動きも、私たちの理事会やコアミーティングでしばしば話題となります。 がん対策基本法のスタートとともに動き出した患者会の活動をとても頼もしいものと感じています。

私たちの研究会は１９９２年に活動を始めましたので、もう１８年になります。 今年7月１０日（土）、１１日（日）に鳥取で開催された全国大会も第１８回ということになりました。

研究会の目指すものは、終末期の医療とケア、日常的な在宅福祉サービスと医療・看護・療養の問題を、医療従事者・社会福祉従事者・市民・患者のみなさんが対等の立場で話し合い、学びあい、社会変革に寄与したいという集まりです。

現在、全国の正会員はおよそ９００人であって、全国各地での日々の活動が基本です。 現在では、施設ホスピス、つまり緩和ケア病棟は、全国に２００を数えるようになりましたが、スタートの頃にはまだ、１０箇所あまりといった状態でした。 私たちの活動も、ホスピスマインドを学び、緩和ケア病棟での療養のあれこれを考え、実施にホスピス病棟の設立に関係した活動が中心でした。 兵庫県では今でこそ、9施設となりましたが、私たちのスタート時には存在せず、学びあっているうちにまず神戸市のアドベンチスト病院に設置されました。 早速、会員一同で集合して、見学に出かけ、ホスピス病棟の担当の山形謙二先生や看護婦長さんと話し合い、また患者さんの入院生活を見せていただいて、深く感動したのを覚えています。

私の住む姫路市でも、研究会の支部的な組織としての「播磨ホスピス在宅ケア研究会」を作って、ホスピス病棟建設に動きました。そして、全国 28 番目の聖マリア病院に播磨地方最初の緩和ケア病棟がスタートして今にいたっていますが、 その開設までには、なんども市民と一緒になっての学習会、ボランティア養成のためのセミナーを開催したのでした。

その活動のなかから、がん患者を中心とした患者の会である「あじさい会」や、遺族の集まり「ひまわりの会」が定期的に活動を続けています。 「あじさい会」は患者との話し合いをしながら、それと並行して「がん患者電話相談」を続けてきました。 このような電話での相談の場はいくつかの施設で始まりましたので、週 3 回の定期的な相談業務は中止して、毎年 2 度の 1 日集中電話相談となっています。

また、この 10 年あまりは、ホスピスマインドを緩和ケア病棟の中に止めず、一般病院やさらに介護福祉施設にも浸透すべく、学習会やセミナーが続いています。 「はりま・ケアと医療を考え、ともに歩む会」が 地道な活動を続けています。 次回 8 月の例会テーマは、「療養生活でのリラクセーションの実際」と題して、リンパ浮腫に対するマッサージ療法やリラックスを得るためのタクティールケアについて学びます。

さらに、あじさい会を中心としたいくつかの患者会を、姫路赤十字病院や医療センターで開催するという試みも定着しつつあります。 日頃の診察室では、患者は、なかなか胸の中の思いを医療者に伝えにくいものですが、がん拠点病院で患者会を開くことによって、医者や看護師に療養の問題点を聴いてもらうということができやすくなります。がんサロンの設置も検討され始めました。

時代の動きが、患者会にも大きな力を与えてくれます。 実は、「あじさい会」では、姫路での第 2 のホスピス病棟建設に取り組み始めました。 小泉政権の時代にスタートした医療界の再建の方向はますます急流となり、がん患者から療養の場を奪おうとしています。 がんが見つかり、手術するところまでは急性期（拠点）病院で大歓迎されます。しかしながら、残念ながらそのがんが再発した場合には、その療養の場は次第に狭くなります。再発をして、化学療法を行うまではいいのですが、さらに進んで「再々発がん患者」となった場合には、しばしばしっかりとした療養の場を見つけるのが困難になります。 急性期病院は多くの場合、ＤＰＣ方式を採用して医療に当たっていますが、（すでに全国の半数以上の一般病棟が、ＤＰＣ方式の採用となりました。）そこでは、複数の病気を持っている患者、いつ退院ができないかわかりにくい患者は敬遠されます。 入院の診療報酬の体系が再々発や終末期がん患者を閉め出すように設定されてしまっているのです。

そんな療養環境の違いから、ホスピス病棟が俄然注目されるようになりました。 その結果、ホスピス病棟受診患者が急増し、どこも外来受診に 1 ヶ月以上も待つのが状態となってきました。

20 年前、10 年前には、新しい療養方式である緩和ケアのためにホスピス建設が課題でした。そして今や、医療情勢から切羽詰まったように、ふたたび緩和ケア病棟の増設が求められているのです。姫路でも、患者会が中心になって、第 2 のホスピス病棟作りが真剣に話し合われています。

研究会の全国大会は、日頃の医療福祉そして療養についての様々な工夫を話し合う以外に、活動の背景にある「理念を学ぶ」という重要な場でもあります。 専門分野からの発言に真摯に耳を傾けてその奥に流れるホスピスマインドを吸収する格好の場所となっています。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します

（2010 年６、７月 活動分）

事　務　局

2010 年６月 17 日（木）：第４回がん医療研修公開講座と第３回運営委員会を開きました。

１、がん医療研修公開講座は県立がんセンター足立副院長をお招きして開催した。

・テーマ：『“がん医療の均てん化”への取組み～がん地域連携パスを中心に～」

・講　師：兵庫県立がんセンター副院長

兵庫県がん診療連携協議会幹事長　足立秀治先生

１）配布頂いた資料：①地域連携パスの考え方、②連携ノート（胃がん編、及び乳がん編）に基づいて説明をして頂いた。

２）懸案の診療計画書（クリティカルパス）に関して、「院内パス」、「地域共同診療計画書（地域連携パス）」及び「患者用連携ノート」、並びに、これらの運用要領案が示され、意見交換を行った。

３）初診から終末期までの「切れ目のない医療」実現の根幹となるものであり、連絡会意見を 7 月末までに集約して足立先生に報告することとした。

２、第３回運営委員会での主な決定時事項は次のとおりである。

１）拠点病院相談支援センター利用状況アンケートのすすめ方

12 月度月例会（12 月 16 日）までに、各団体等でアンケートを実施し報告を行う。

２）兵庫県当局との話合いについて

開催時期と議題を次のように決めた・

ⅰ）時　期　　「8 月度開催」を目標とする。

ⅱ）議　題　　①がん検診受診の現状と今後の啓発活動について

②在宅療養支援の現状と対策について

2010 年７月 21 日（水）：第５回がん医療研修公開講座と第４回運営委員会を開きました。

１、がん医療研修公開講座は神戸大学病院 南腫瘍センター長をお招きして開催した。

・テーマ：「がん薬物療法の現状と将来展望」

・講　師：神戸大学付属病院腫瘍センター長　南 博信 教授

１）今までのがん薬物療法に対して、新たな考え方で開発され治療効果を上げている分子標的療法について、イラストを使用するなどして全体像が理解できるように丁寧に説明をしていただいた。その上で、今も新しい標的・作用機序の薬剤が次々と開発されている状況について説明していただいた。

２）分子標的療法の適応範囲の問題や、がんワクチン療法、免疫療法との違いなどの質問にも、注意点を含めて丁寧に答えていただいた。

２、第４回運営委員会での主な決定時事項は次のとおりである。

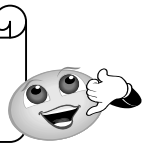
１）兵庫県当局との話合いについて

話合い希望内容を付して、8 月 19 日（木）18 時開催の申入れを行う。

２）県当局へのがん検診啓発活動の連携申入書について

昨年度の活動実績を踏まえた新たな申入書を疾病対策課長宛に提出する。

ひょうご がん患者連絡会行事予定（2010 年８月～10 月）



日　時	行事・会費	テ　ー　マ・講　師	場　所
８月 19 日（木） 18：00～	兵庫県当局との 話し合い	１、がん検診受診の現状と今後の活動 ２、在宅療養支援の現状と対策	兵庫県民会館 ９０１号室
～21：30	第 5 回運営委員会	――――――――	
９月 16 日（木） 18：00～20：00	第 2 回 フリートーキング会	――――――――	神戸クリスタルタワー４階 （未定）
20：00～20：30	第６回運営委員会	――――――――	
10 月 21 日（木） 18：00～20：00	第３回 フリートーキング会	――――――――	神戸クリスタルタワー４階 （未定）
20：00～20：30	第７回運営委員会	――――――――	

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、５団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行されます。

ニューズレターの構成は、第１面が各団体代表による取組み報告、第 2 面が各団体持ち回り執筆の連絡会関係の活動報告となっております。

この第 12 号は“日本ホスピス・在宅ケア研究会”さんに担当頂きました。

第 13 号（９月発行）は“ゆずりは明石” さんに担当頂きます。よろしくお願いします。
編集後記は編集委員持ち回りで、“広報リーダー”武内さんにお願いします。　（事務局）

編集後記

編集委員　草野郁子

第 12 号の巻頭の記事にあります「日本ホスピス・在宅ケア研究会」全国大会に鳥取まで行って参りました。７月 10 日、11 日の二日間で、参加者の延べ人数は約 6000 人とのことですが、どの会場ともあふれんばかりの熱気に包まれておりました。ホスピスマインドを学ぼうとする人が非常に多くなって、医療の現場だけでなく福祉施設や業界など各分野に浸透していっていることを改めて感じました。それに伴って患者会が発信していく役割が何かあるのではと思います。ご一緒に考えていきたいです。

猛暑の季節、どうぞくれぐれもご自愛くださいますように。